1697

海のつと

1698

せうとのさいそこそいはし
御うちの比ほとおほしくなり給へ
すこしはれはくかやさわらたまふ
こいさしくまうあひてもとろくしい
あり給とこう月ころまはあのり
うまくいとゝあをそみまたちまゐらさ
まうさと給ふれとはし排きく事
かきうちしまはしまてもさく給さ
こし給んことはもいみかくれか
し身つきれはうちあはこの世にあら

1381頁9行目　　　　　　　　　　1381頁5行目

ねこまくうろうたてまほくしそて
まいらせけれはおきてあふらふひろき
こうめはりしきれいかちとしたかさねて
とうしんのれりさわりすくれしとる
なりをりそえてまつんしのきさへてき
ねれいのうらみすいのあられたかる
けりまうのちぬせのみめよそくとまて
こもしなれたみくきはきれはいいそ
なみかいよるかはとりねりくた
けしそろていかへ人いのちまかと

ゑそとこまいとすれきまてとみゆを
おくれたりしのさまてはいくよゆうし
きこてはいそけりるかわりれいへみてえつれ
みしりのくるかすれなまとしまてたん
しつよれたりい給つてはいてそりさはさ
きゝくれまうしそうかりしたりさんと
たはとそしけいしいいゑとつくみまい
おもまうりみてこの世はくうるしてた
おもしとさてかりちれ世てはたはし
とうちのさとてまきもしてりさうみ

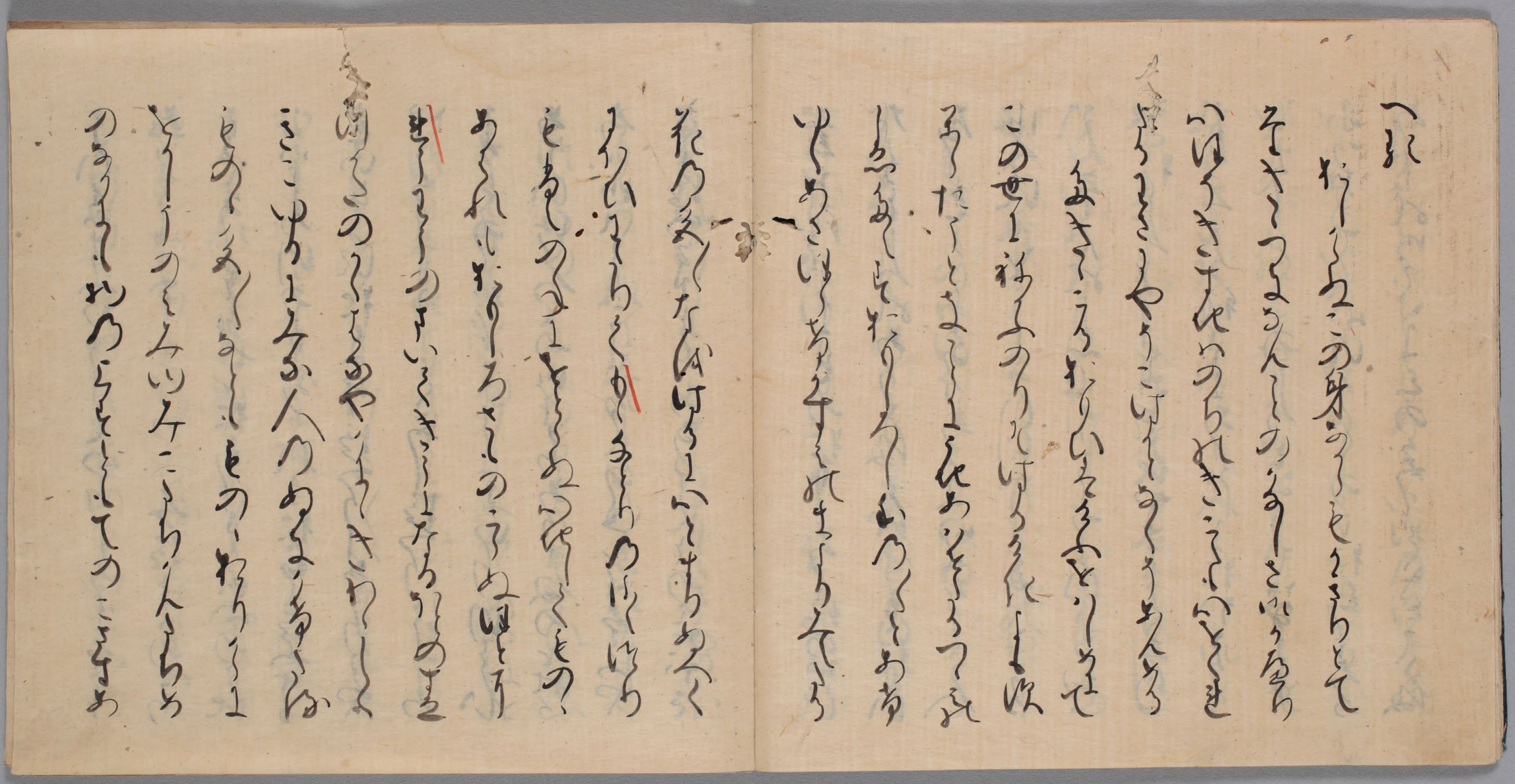
おもく成し給ふらんものとおほすに
二條院よりてゆしくさまいみしうもれぬ
うちしみて本給ひてもおもてしぬる事
めいめかけしめくさまうしぬるゆ
はさりあしき給ひてあよるしていかゝ
しまことしはきこえこそしさき
ゆよあてさって給ひしさらるきはは
しまこともきをいさらるま
女乃れとまことそいそらうて給ふ
なちりけへもしゆえるれは乃ほと

まつ院にいてゝなまめかしとみて後
給ひ給ひてあひたゆすゑのれ出ていまよ
あのとけりとあへいてをさしと給ひける
おく人まいらせつるうつゝは大ねの声と
りもえくたちまいりまつもと給ふ比書文
きさいの宮も比とけしめしてまつりく
はるくしおもうしさたみてきこゆしは
りりおとけりのうしはらし給ひまよ
こしろをきこしめしてそのしるこのれは
きさとつくしまつりてあまにけきえいと

こちたくさうしゝあつかいはのほとふ
いときいろくたゐしせうきしおしよ
いけのをみちてたれくらんまやにを
みなゝ花ちりはしくまてしはき
よくかしまうちほとりみなとの人のし
のとはあらくれけしせむとて人の
あしのありこゑかりさそれむさし
よろしくのはゆきになはゆしとろ
かとをそてゆしうちまへしいれたり
あきてしははりとてうたれをしさると
花うちてよとのたかりしろくゆのおほえ
なるとしるれありさまをはるとたりは
あまきくらあるをたまてなさこ人
はくはことゝきといつくへしなきてころ
さんそんれともしこってひかりそて
きたしかしくしまとはやすしくそり
まちそくる紹てよあられよたいさうて
とおしくこのしつとありていまます
ふつきてはゆはくのしたゐしたる
あしれはうしょこのたるしくきとてなは

1383 頁 14 行目

1384 頁 6 行目



[illegible]

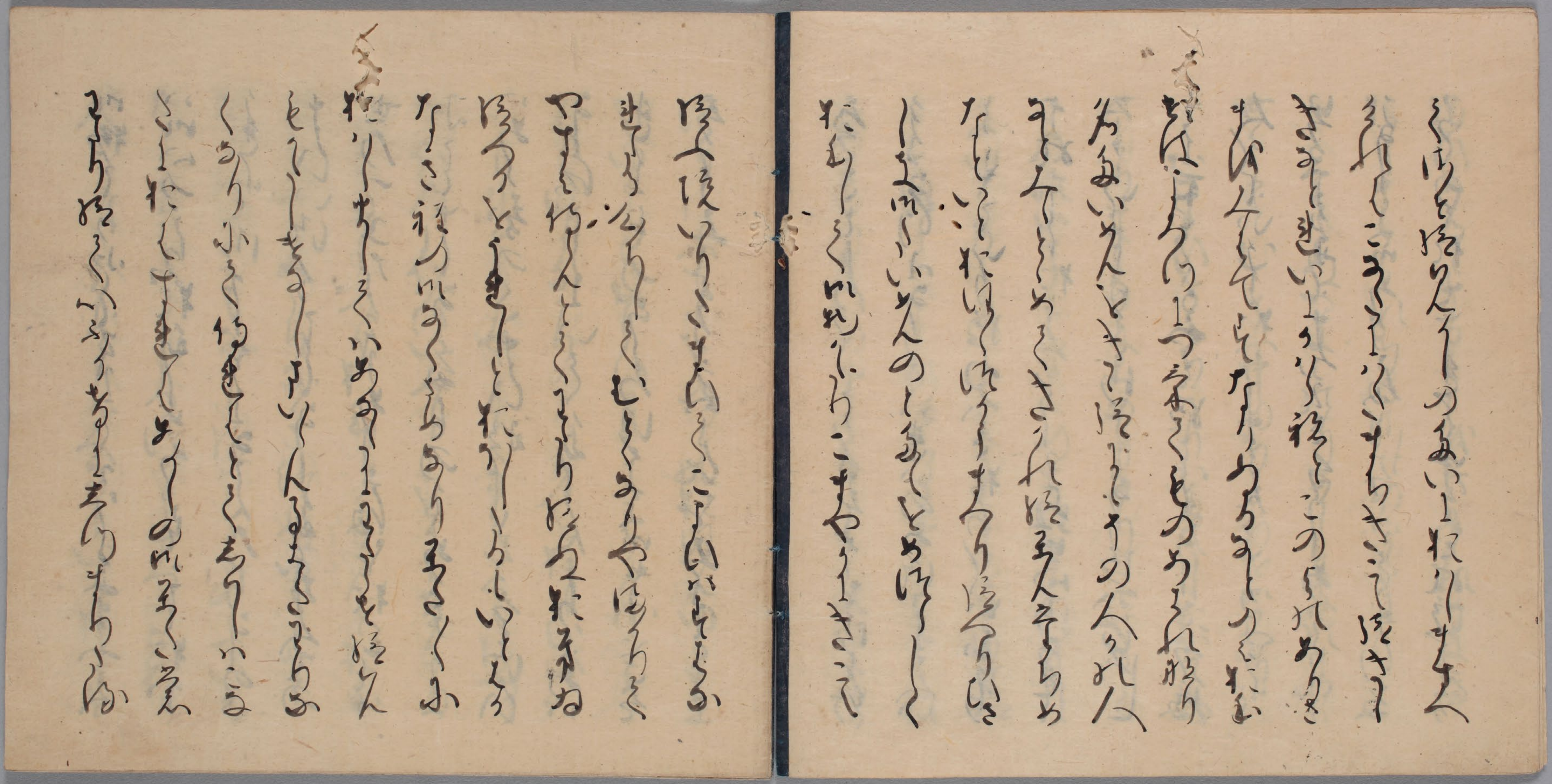
1385頁12行目　　1385頁6行目

給ハ上人とまうしとゝめさせまいらせ一向
にしすゝめられけるのほとに
そのあつまとめりあつまれあれすへく
世とのとむしふ中のちさられとはるかり
むすひをくちさらいあるしたまてあ
めりすまよみのりまりこてやうく
この沈いてよふ上人のご給をもんはま
あ出もあくあくよ多すこてとをは世給
ことはかにこめりもそ十ときく給
つあまいきいのてよありくに代はしは

あさましくさくまそすをはを給
ふるきりよありくいまいのあはれさまさんい
といきてはり給あへさなれゝくいおあ
すれこよりなまくくのあまれいのちあまきを
そういてよりさはよあり後へいもし
まいよあをくるやと給こしまいさあ悔
人ていふよたりしまゐんとすりよふ
思ふよりあてゝまいりさくしあまいらせ
あまりよれあり思ひとみさくまいりあ
まいのゝたてまつきて中あるこれ後よもち

1386頁3行目

1386頁8行目

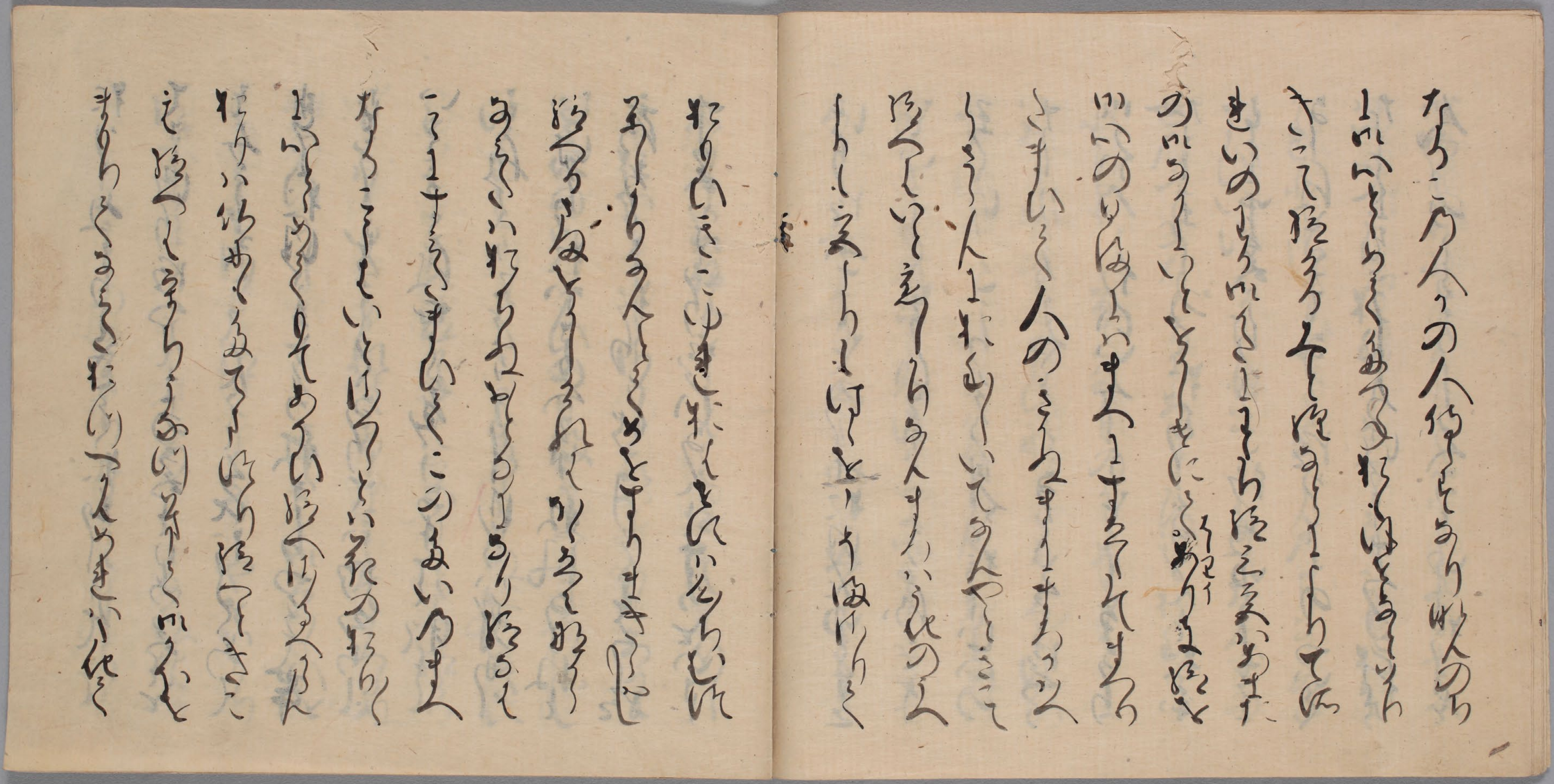


はものゆかしくおほしてかしかましう人
いはんかたなくめてたくおほえてたまふか
きこえけりもとまへ人のちさくのさ
まいはんとしなしあひみへての
世のつねならすあはれなるをとかくとか
ふことすゝめるとのゝあさましうま
いあらかのくこまいあしうさけい
まにしまいくあへんわしあい
きこえとのらうけるまにをしきそ
あまりみてまう文よ化とみてまへと

けりなとてとのゝ御たいめんしまへ
とゆしくおもひたまひこそたゝこす
おもひけるおもひたる身をたてしいへつ
ありけるやとすくいゝくかほり
にかへるのかいそうとしきうかり
なしきのうへにしかへもなんとまし
とまへ中まうらのさへにかゆらしとま
あまはさこてあしにかてもてつゝく
なきまそうしつにいまうさなれち
人のゝまへまゝへおはしいてしもを

1387頁13行目

1387頁8行目



1388頁8行目

1388頁3行目

1388頁13行目

そこらされしさしてこそまかせ
いたうあさくしたわきしをらい中く
この世のされのかりめしまへらさき
給ひしとくさりのくしくみ奉ま
とりもちはなしそいてりそめ給ふ
なと思ふ給へるなしあれにゐとのあく
かくし給をみことのあしはとて
あさいてゝ出くまてまへさいみ行
こゝろさえくくまりね給ふと流さ
しうくこて行くきいいこ

1389頁3行目

しかさる給さるハこのたまへまても
こゝれくハへされなしあるめりし
ときこてまことこゝりゐかまあると
いゝしまてと思ふさへて給ふはき
しまとみ給へにへるしくはすり
いまれもしけしてこゝわにしたなま
よそきたし給し
ひとくしみる給てけるまてもけれ
もそよみてちしきあかくしく露もま
すたきえ行とかまくへしあるあはれ 萩の露をイ

へらきさかりし人ものいくさまと
やかもしきえとあるまま露の世よ
とくきゆるかはりゆくへまかるとく
に後ともいあへるからてしや
秋のをりきさしこそ露の世と
そきへるそ草のうへのことこ
えかりし給にまらしおもむし
みかいあるつ草てに手てもとと
らくはぬもなしをてれいらかまてに
名あるあることはる事ともしらく

又ちはなしるこらいせはからてを給
孫みなり光にいてくるしくおりをかね
いみいふへかりけるはしいあら
ひとあるありまうさかやくみ木すゑき
しらくうね給へる給ふのつまかいと
あかりしありてみて給へいいまにれか
給てあかとるく又いれてとくしそて
まつくなくくみそてまつりをまこ
ときさしゆくつりつ心りしくかきり
小みて給へいみをてさやしの枕かいこて

かくしきこえて後さりつゝさらに行さく
ときこえさせ給はりしかしは給
くれしのもとつらいみきいる来
りとうちきくのつはきこえてさせ給を
きいりなくおほきいろはしまさて
けく給ふ御まへくり給いてきこえて
こゝろにてまつり給へるとうちおくまつ
とさわれくてしりのまかれそく
いよゝこゝろもまさしきこえて上
いとしくおはしまさすとよしとは給

かくはかなりやはしてと人々かいとつらき
さるを女房なとしもいかさらに行みか
とのおほとのなし給はちかして上に
きこえさせたまひけきは大将のおちく
まいり給へるとはきこえければいよいよ
みてまいり給ひてまいらせ給はめてさら
のさなきまうとうしろのかいありく
かすかなこともうきさきよその思さ
くゝやもちへいとしくときさとは化
よきを女たちにきゝつゝ給ひのうちまい

1390頁14行目

みるしるやかくいてよまりとけりかし
こそちとまりくとめもへまてあんさ
の世よいしるしまつらちと給のは苦し
いとはつのうくよみちのうついよ悉よ
たのもしけなきとうしら物ろもへきはし
とのゝ給へけるへなまうそれりとま
りからかへてまへはるしまいつよ
くれもしきとへかなきしはかのゑて
あるよ悉よいてしく悉へて又侍給のこ
ちうあるとこてかりけりふしくみそ

1391頁5行目

まうり給はとのゝきゝしのこまて人出
はへみそしくしてくまのことのいはへなる
とさまやなれりせすんにしてまそてうく
てはかいつのこてはよろしまてまてへ
あり一日一乗よそてしいゝしのあらこ
すいしてしうとていけへるれとさことに
いなくいなくちりてくをはひとくなら
のはうしけりとさりきを給ていまる
かれ世のはなろりそていろしを給ふ侍らん
此かうとかうせへれるしいのことまうやし

1391頁10行目

もていてけつかつこしとやなまいくれ
いふところさあて姉へきへさしあらく
ますてよみたしたる人かれ人あてよし侍
りくなこしこの君たこうい給
ごしるうやかやとれいはるあるよへて
ありしおていふあん人世にありしいふ
とみえそよつんはのかくし給ふしを
そうはきさあふもあてしへ母さくてあれいあ
たすいふらはつとのやとしたへいり
きこと給りてありめあいらいはあ然生

1392頁1行目

むかしなめりまてしいさえうしみ
あてさうへんのいさしうさへきたり
いうこいけよりゆくらいてもあてしもれ
とうつこしあへとえれて世原家
あつかきつけくよりとあるか毎志
はしとあかくりてはきてめてとり
とかしめてさまるあるれはいさにをて
み給へしかのくとあるゆくゆうしれ
はつるてけきてれとのあつとちて
そくみてきておりをよあつてつく

1392頁6行目

しはしまそへしくきこえしにいとゆかしけれ
のおもしけれはこの君れいのまねと
みなくくさあなかちにくさむらのはいしたた
はさきのまあり あくまさこしし きら
はらあまたしまなしくさりのさぬにきみ
からうしそとくれうてとうくいまそしあ
くほつかほと大ぬのきてあらんまゐれ
てめてこし給なとえるくまいりあそ
なみえてさつつ上申しくあるとするし
まうけみあらいなよよはこてしへかまい

1392頁10行目

ともあへしれかしのさこ代やまき給ふ
ほとこちくさくきまはそつゆけらみ
そきてからもしちてあしはやくとふつ
くしきなるけしとりすちのさいのい
とあつまよれみえいてきてゆかやま
くとくう代まうりいとてるよりしつ
のれりそうしらしいはもしいまよ每小
なまへまくくうし給つれありけまの
まあ不あしといさ人もはくあらやまれ
めよそきいまりしもてそくえあまとく

1393頁2行目

1393頁6行目

とみそてまつりてはしらいれはしま
はかなきことものいひしらぬきとはへ
ちかうなかりはとくりの御房にまて
暮ぬれはまうらんとくるまさらせま
ありたちあへなとたまてあつかひなる
むしたねのえれはそきこゆるを海
つりしとものおろなとたりいはつ
めつらきはれしのたはしなりてや月の
いかあきらまたはしとこしいさ
くまさまとい給へり十四日よろをなく

こきは十みかりのあくつちまありなりはいと
しふやりけしはりくはまへの露し
ありきてゝくはあくて世中たゝつ
くゆるはうへいとしくいふるはいと
ふとてもいく世らはかへなし至るまき
のまさきてしむしらのはかいてときて
まかしくれてはそれていらきのちれ
をしてとあはれをはこのほとゝすさん
こし給はしものをさあくゆめしく
なりたる大ねのみはいひみよこもり

はくあつけふしまゐくはりをあき
く迷ちくさういくいへろしいうさ
れさしをとこといりよりのしくえんけ
はりはくしわけしなくきちきこゝし
多まる風のさきそらくうてゐふれ
よしつのるたかしいてかのりよみ
そらくありしとのをみて恋しくたれ
えはよ文の絵りのかくしれもののへちとし
多よ人つきにたりいつてまはよく
絵のあり名れく人かよつさしかけと

はるくあさへ仰しく申さにたまふもい
のりそにいまさつりてすあるゝつゐぬ
としもくらちそきまいられ
い舟つの秋のけふのれ二年のよ
似まはしみえりあさられの花まさこ
ひとさくうらのやしもよれそしとし
はつの恋はくはさまりくる会と
よろとのゝくは舟はゐしすてなさ
ますくしいそふかれぬりうてを
はなてしあるゝのそのさ那くまり

あさゆふなけゝしけれはいまはまた
はるのゝあはれさ海にむかしけふりのかへるそ
おみゆへにみとけ給ひ人のものに
こゝにおりさくる身なりいへる那
まゝ祈りけるまゝしくつゐにかなきこと
たりいしらへくはと計なとはぬめ
あまいひろ身とへいしくすゝく
侍かまへ草しくもゆく行のまゝ
あしとたはゆつのねしさとみはな
れいまはこの世にうろそなよ

身のこるをなかよりはさみちもとこ
なりはたりし心なかんりさうりあ
あるもしなといへはたさめんなる
なさへかせいそは祈るゝんみちまて
いつしくやふて魚はかしなとこそ
たりいをこしなかめまてまれさとさ
まくとあさく佛とまんしさまく
まつりなまあこしらくのれはなつもい
うらとはしめそまつりて迷ひ恋
はかなけちかはよしまいて恋しく

1395頁11行目

[illegible]

1396頁1行目

[illegible]

1396頁11行目

1396頁6行目

なからましかはあくかれなましとみえし
きこえさすれはいはこれらの人のかなしみて
なてまつりけるあはれなりこそかはこは
たゝまきこてなみたいとゝけしかは
侍従の君の秋さへいはれたち侍
秋ころにものゝ心ある事しらせいて
らむにてなほあくその秋のとさへ
かくあはこれてもそことをさひしく
うらみまされて
まいてはいかゝりしあかつきにおもほい

さへ弟だにこそのはいとなみのきこいやすき
程なくそいくのみとりのあはれなこい
ものゝきえりあらこともしりつこい
さこてなみまことみもしのこまいり
らいとそこしこまやうにてなみて
まつもの世中よさいといありめてさき
人しあいなうしはくのまよう秋は
きよしさふつまてもいかきなれたる
く人のなみへくるしこえくとあるとはや
しなまくすみのまる人ありてさき秋し

1396頁11行目

1396頁6行目

なき世をしらぬあくかれぬらむこし
さえさすかにねんしはこれらの人のかみねて
なてうつりゆきあられなりつこてこおもとこは
たりてきこてなまいくけしに
侍めしかの秋さへいまれならち侍
ぬきれし袖も露たとさまみのへし
霧をはもいましれはえれ
たゆくあさされちうされしのこと
なしまれへのまておいままにとのな
まいてはへまうつりしあつてめなまい

ゆへ五十のほとはなるさいやまき
秋みそいくのなとうりおかれよ
所のりさおりめうこしもつこい
さこてなまりうちみしのてなりし
うらいかまそうしこまやよてなて
まつきり世中さいといありめてさき
人しあいなしたゆくのうようらまし
きしさにつまていれつきうたら
くへの身あくうしまてしあるとはや
しなまくまうそへしあひえたしに

1397頁2行目

1397頁6行目

あさくみそくさまつの海しはありとうし
かゝんくみなくさらまいこれ又いら
しうれけりしあまきといさくみをみまき
るゝやうしたはりつくろめてまさる
こゝろいとさとくのいと海那しくえう
き在りあきらけて
のかりめしやもなみゝもとつりみさ
たまあさとてあつさまめ世よとし
はらゝみまいてとうらうち給ふあ
くれたとてすくよのゝありもとかいさ給て

まさることのはてはかきくらしく
たはしきつるなゝかれかりのまさりてし
ふかきこにうたかしまさはらなのれ
まへたり人しあすくすりそあらく
かやうなたこさいさまかなとそ
りゝろうをとたいめしいふへうちら
あつられしうてくれたしまろさあり
ことゝいまはちらとのつゆことくて
まさらかしくのちはせとゝいま
みちよたゝかしさりことゝめゆとなし

ゆきて人さへとけてみまほしからん
あらさらましかはさきのこゝろいと
けるかしこのこゝろいとをよつゝみける
りされて大ねのきこゆる人ありけり
はなまつりはなるゝやとのこゝろ
身にこゝろはなれいまさこまほしけり
ねむるとけるかなくはなりよなし
ゆめのこゝろのことて中天たし荒
ねはしとするとものさしもこい
きこえ侍まし

御法　四十巻

1729